

2019 年本試

問 3 次の文章は，中世から近世における武士の心のあり方についての説明である。

文章中の  ・  に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

中世の武士たちは，戦いで勝つために強さを求め，見る者の心を動かすような武勇をその理想とした。仏教的世界観からこの世を  であるとみなしつつも，彼らは，自己の武勇が「名」として後世に語り継がれることを信じた。

戦いの絶えた近世には，代々受け継いだ家職において，主君への奉公を全うすることが武士たちの目的と考えられるようになった。  で語られる「武士道と <sup>いう</sup>云は，死ぬことと見つけたり」という言葉は，生への執着を離れて，奉公に <sup>いちず</sup>一途に徹した見事な生涯を貫こうとする覚悟を表したものである。

- ① a 無常      b 『自然真営道』
- ② a 無常      b 『葉隠』
- ③ a 無常      b 『翁問答』
- ④ a 浄土      b 『自然真営道』
- ⑤ a 浄土      b 『葉隠』
- ⑥ a 浄土      b 『翁問答』

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	②	2

2018 年本試

問 4 次の文章は、近世において学問がどのように学ばれていたかについての説明である。文章中の  ～  に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

近世に学問が興隆した背景の一つに、出版業の発展がある。 は、初学者に向け、和文で『大和本草』『養生訓』などを著し、その書は広く読まれた。書物の普及につれて、塾や学校が各地に設立された。例えば、懐徳堂からは、儒学や仏教などがいかに歴史的に展開するかに関して加上説という考え方を唱えた  など、独自の学説を打ち出す人物が数多く輩出した。

塾や学校では、漢籍の素読のほか、師匠による講釈、現在の読書会にあたる会読などが行われた。山崎闇斎は、朱子学の真髄を伝えようとして講釈を重要視したが、朱子の解釈に頼らず儒学の原典に直接向き合うことを重視した  は、講釈よりも会読を重視した。このように、思想的立場の違いは教え方の違いにも反映された。

- |   |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | a | 貝原益軒 | b | 安藤昌益 | c | 新井白石 |
| ② | a | 貝原益軒 | b | 安藤昌益 | c | 荻生徂徠 |
| ③ | a | 貝原益軒 | b | 富永仲基 | c | 新井白石 |
| ④ | a | 貝原益軒 | b | 富永仲基 | c | 荻生徂徠 |
| ⑤ | a | 本居宣長 | b | 安藤昌益 | c | 新井白石 |
| ⑥ | a | 本居宣長 | b | 安藤昌益 | c | 荻生徂徠 |
| ⑦ | a | 本居宣長 | b | 富永仲基 | c | 新井白石 |
| ⑧ | a | 本居宣長 | b | 富永仲基 | c | 荻生徂徠 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問4	23	④	3

2017 年本試

問 5 次の文章は、荻生徂徠が朱子学の経書解釈について言及した一節である。ここに説かれた内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

経学のための害は、古言を失ひ<sup>そうろうゆえ</sup>候故、経書の文面<sup>たが</sup>違ひ申し候。理気天理人欲等の<sup>つきそえ</sup>付添これ有り候故、聖人の道に一層の皮膜を隔て候。惣体<sup>そうたい</sup>\*宋儒\*の学は、古聖人の書を文面のままに解したる物にてはこれ無く候。程子<sup>ていし</sup>朱子<sup>いず</sup>何れも聡明特達の人にて、古聖人の書をはなれて別に自分の見識これ有り、その見識にて経書を<sup>きぼ</sup>捌き申されたる物に候……（朱子学の経書解釈に凝り固まった）人は、是非邪正の差別つよく成り行き、物<sup>ごと</sup>毎にすみよりすみまで、はきと\*\*\*致したる事を好み、……風雅文才ののびやかなる事は嫌ひに成り行き、人柄<sup>あ</sup>悪しく成り申し候こと、世上ともに多く御座候。

（『徂徠先生答問書』より）

\*惣体：総じて

\*\*宋儒：宋代の儒学者。程子（程顥<sup>ていこう</sup>と程頤<sup>ていい</sup>）や朱子などが含まれる。

\*\*\*はきと：はっきりと

- ① 朱子学では、古代の語義を尊重しつつ、意味の通じない部分を恣意的に解釈するため、経書の真意を見失う。こうした経書解釈は人格の<sup>かんよう</sup>涵養にも影響し、朱子学を学ぶと独善的な性格になる。
- ② 朱子学では、古代の語義よりも、自分の考えを重んじて解釈するため、経書の真意を見失う。こうした経書解釈は人格の涵養にも影響し、朱子学を学ぶと細かな道理にこだわり、偏狭な人間になる。
- ③ 朱子学では、経書の真意と自分の考えとを比較しながら妥当な解釈を選択する。こうした態度を突きつめていくと、ささいな語義にこだわり、物事を画一的に捉える性向を助長することになる。
- ④ 朱子学では、自分の考えを付け加えて経書の真意を捉えようとする。こうした態度を突きつめていくと、是非善悪の区別を無視し、自分勝手に振る舞う性向を助長することになる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問5	24	②	3

2015 年本試

問 4 古文辞学に基づく経書解釈を提唱した儒学者に、荻生徂徠がいる。彼の著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 『弁道』
- ② 『聖教要録』
- ③ 『翁問答』
- ④ 『論語古義』

問 5 近世の文芸や思想において、他者に対する関わり方を示した人物の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 人形浄瑠璃の脚本家であった近松門左衛門は、儒学的な人倫において重んじられる人情と、恋人に対する義理との間で苦しんだ男女が、最後には身を破滅させる物語を、共感的に描いた。
- ② 浮世草子の作者であった井原西鶴は、金銭欲や色欲にまかせて享乐的に他者と関わる生き方を、当時における町人の有り様として肯定的に描き出し、勤勉や儉約の意義を否定した。
- ③ 鍋島藩の武士であった山本常朝は、『葉隠』において、主君に対する絶対的忠誠とそれに根差した死の覚悟を説き、民に対する為政者としての自覚を求める士道とは異質の武士道を示した。
- ④ 国学の祖と言われる契沖は、事物にふれて動く感情をつくろわない、「ものあはれ」を知る人だけが、他者の悲しみに共感できるとし、情欲を制しようとする儒学的な道徳を批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	23	①	2
第 3 問	問 5	24	③	3

2013 年追試

問 6 荻生徂徠は、孔孟の教えの実践よりも先王の時代の制度を重視して古文辞学を唱えた。その学問の内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

26
----

- ① 先王の道を正確に理解するために、古代中国の言語感覚を身につけ、自己を内省して古典を読む必要がある。その方法によって、人間の本性にそなわる天の理を窮め、経世済民の理念を体現することができる。
- ② 先王の道を正確に理解するために、古代中国の言語感覚を身につけることは重要だが、古典を読むには日本風に訓読を用いるのがよい。その方法によって、経世済民に <sup>かな</sup>適った政治のあり方を正しく理解できる。
- ③ 先王の道を正確に理解するために、訓読によらず古代中国の言語感覚を身につけ、道徳的な観点から古典を読む必要がある。その方法によって、聖人が制作した道に沿った修身が実践できる。
- ④ 先王の道を正確に理解するために、訓読によらず古代中国の言語感覚を身につけ、直接古典を読む必要がある。その方法によって、聖人が制作した安天下の道を正しく理解でき、その重要さが明らかとなる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	26	④	3

2011 年本試

問5 善行の社会的な側面をも重視する近世の思想家もいた。次のア～エはそれらの思想家の説明であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

ア 古代中国の聖人が制作した儀礼・音楽・刑罰・政治などの制度こそが、天下を安んずるための「道」であるとし、心の修養を求めることよりも、具体的な「道」を学び実践することによる効果の方が重要であると説いた。

イ すべての人々が田畑を耕して衣食住を自給する平等社会を、理想的な「自然世」と呼んだ。そして、みずから耕さずに農民に寄生している武士などが存在する当時の差別社会を「法世」と呼び、「自然世」への復帰を説いた。

ウ 名を求め、恥を知るといふ心のあり方を重んじる中世的な気風の武士道を批判し、儒学に基づく武士道としての「士道」を説いた。そして、武士は道徳的な指導者となって人倫の道を天下に実現すべきであると主張した。

エ アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことに衝撃を受け、西洋諸国に対抗するためには科学技術の移入が必要であると考へた。そして、「東洋道徳」とともに「西洋芸術」をも詳しく学ぶべきであると主張した。

- |          |        |        |         |
|----------|--------|--------|---------|
| ① ア 荻生徂徠 | イ 安藤昌益 | ウ 山鹿素行 | エ 佐久間象山 |
| ② ア 安藤昌益 | イ 山鹿素行 | ウ 荻生徂徠 | エ 高野長英  |
| ③ ア 山鹿素行 | イ 安藤昌益 | ウ 荻生徂徠 | エ 佐久間象山 |
| ④ ア 山鹿素行 | イ 荻生徂徠 | ウ 安藤昌益 | エ 吉田松陰  |
| ⑤ ア 荻生徂徠 | イ 山鹿素行 | ウ 安藤昌益 | エ 高野長英  |
| ⑥ ア 安藤昌益 | イ 荻生徂徠 | ウ 山鹿素行 | エ 吉田松陰  |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問5	18	①	3

2009 年本試

問 4 荻生徂徠についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

17
----

- ① 聖人の言葉に直接触れるために古代中国の言語を研究する必要を訴え，後の国学の方法論にも影響を与えた。
- ② 孔子以来，儒教が重要視する孝を，人倫のみならず万物の存在根拠とし，近江聖人と仰がれた。
- ③ 実践を重んじる立場から朱子学を批判し，直接孔子に学ぶことを説き，『聖教要録』を著した。
- ④ 『論語』『孟子』の原典に立ち返ることを訴え，真実無偽の心として誠の重要性を主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	17	①	3

2008 年本試

問 4 次の『葉隠』の文章を読み、その趣旨に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 17

意見の仕様、大いに骨を折ることなり。人の上の善悪を見出すは安き事なり。それを意見するも安き事なり。大かたは、人のすかぬ\*云ひにくき事を云ふが親切の様に思ひ、それを請けねば、力に及ばざる事と云ふなり。何の益にも立たず。人に恥をかゝせ、悪口すると同じ事なり。我が胸はらし\*\*に云ふまでなり。意見と云ふは、……先づよき処を褒め立て、気を引き立つ工夫を砕き、渴く時水呑む様に請け合せ、疵直るが意見なり。

\*すかぬ：好まない。

\*\*胸はらし：胸中に積もった思いを晴らすこと。鬱憤を晴らすこと。

- ① 相手に敬意をもつからこそ、相手への徹底的な配慮に基づき、相手が腹の底から納得するよう意見することが必要である。
- ② 相手に敬意をもつからこそ、相手が好むと好まざるとにかかわらず、相手の善悪について客観的に意見することが必要である。
- ③ 相手に敬意をもつからこそ、己が正しいと信じる善悪に従って意見し、それが通じなければ相手に見切りをつけることが必要である。
- ④ 相手に敬意をもつからこそ、己の立場と相手の立場とが折り合いのつく地点まで相互に意見し合うことが必要である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	17	①	3

2007 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

荻生徂徠は、「和」とは規範におだやかに従うことだと解釈した。徂徠は、人間の性質が多様で、分裂や対立を避けることができないゆえに、天下を安んずるために立てられた  に従って、お互いに助け合いながら生活しなければならないと説いた。

- ① 夫子の道                      ② 先王の道  
③ 惟神の道                      ④ 武士の道

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	14	②	2

2006 年本試

問3 「道」は聖人の「作為」によるという考えは、儒学の中でも古文辞学派特有のものである。古文辞学派に属する儒学者として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

16
----

- ① 荷田春満      ② 前野良沢      ③ 吉田松陰      ④ 太宰春台

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	16	④	2

2006 年追試

問 4 伝統的な武士固有の倫理の系譜を引く書物に、江戸時代中期に著された『葉隠』がある。この書物に示された武士の生き方の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 武士にとって、刀は力と勇気、忠義と名誉の象徴である。平和な時代になっても刀を帯びている武士は、武士に認められた特権と、平和の維持という責任をつねに忘れてはならない。
- ② 武士の本質は、主君のために潔く命を捨てることにある。だから武士は、平和な時代でも、つねに死を覚悟して毎日を送ることによって自己を捨てきり、主君に仕えなければならない。
- ③ 武士は武運を天に託して戦う存在だった。天の意志は予知できないが、天は人間の善悪を厳しく照覧しているのだから、武士は日ごろから天に恥じない生活を送らなければならない。
- ④ 武士は戦乱を通じて、組織の中で主君より与えられた任務を遂行する分業と協業の精神を学んできた。武士はそれを平和な時代における主君への忠節として発揮しなければならない。

問 5 荻生徂徠による朱子学批判についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 道とは、社会の秩序を維持するために過去に存在した、理想的な礼楽刑政の総称だから、朱子学が説くように自己の内心を道徳的に反省したとしても、理解できるものではない。
- ② 聖人は、人々が誠実に互いを思いやる、仁愛に満ちた人間関係を理想として説いているのに、善悪を厳しく問いつめる朱子学のような学習法では、冷厳な個人を養成することになる。
- ③ 人間は能力の差はあってもそれぞれに有用な個性のある存在なのに、朱子学がすべての人に同じように完全な人格者となれと説くのは、無理な要求で

あるばかりか，有害無益である。

- ④ 儒学の経典を正しく読解するためには，それが書かれた古代の言葉の理解が欠かせないのに，朱子学が後代の言葉によって聖人の道を把握したとするのは，勝手な思い込みである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問4	16	②	3
第3問	問5	17	②	3

2004 年追試

問 3 荻生徂徠の主張として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

23

- ① 聖人は、言葉だけでは人を教えるのに不十分であることを知っており、礼楽を制作して、それによって教え導き、人を感化しようとしたのである。
- ② 農民は草莽そうもぼうの臣であり、商工は市井の臣である。臣として君を補佐するのが臣の道であり、商業活動も君が天下を治めることの補佐である。
- ③ 天が上にあり地が下にあるのが、天地の礼である。その天地の礼が人に生まれつき備わっているので、上下前後の秩序が成立するのである。
- ④ 学問して道を知ろうとするならば、まず漢意からごころをきれいに取り除かなければならない。そうでなければ、古書を読んでも古いにしえの意ごころは分からない。
- ⑤ 忠や義は、万民誰だれもがなすべきことだが、農工商は職業上余裕なき生活を送っているので、士が代わりに人倫を正す義務を有するのである。
- ⑥ 毎朝毎夕、心を正しては死を思い死を決し、いつも死身しにみになっていれば、武士道と我が身が一体化し、家職を全うすることが可能となる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	23	①	3

2003 年追試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ  
選べ。

江戸時代の日本では，例えば，中国古代の聖人が制作した「安天下の道」に価値  
を見いだした  が中国の古典を絶対的なものと見なしていたように，一般に儒  
学に基づいて中国を中心とした世界の捉え方<sup>とら</sup>をしていた。

- ① 伊藤仁斎      ② 熊沢蕃山      ③ 新井白石      ④ 荻生徂徠

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	21	④	2

2001 年本試

問 6 古学派の立場をとった人物として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 

8
---

- ① 伊藤仁斎    ② 荻生徂徠    ③ 山鹿素行    ④ 新井白石

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 6	8	④	2